児童発達支援　事業所における自己評価総括表（公表）

○事業所名	あいの風キッズステーション			
○保護者評価実施期間	2025年　2月1日	～	2025年　2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10名	（回答者数）	１０名
○従業者評価実施期間	2025年　2月1日	～	2025年　2月14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	１０名	（回答者数）	１０名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児の受け入れ	法人の強みである、訪問看護や訪問リハビリ、相談支援事業所と連携し、医療的ケアがあっても安心して通所できる環境調整を行っている。 低年齢から通所（外出）を経験することで、外出するために必要なこと（物品やサービスを含む）お子さんの生活の基盤を整えるためのはどうしたら良いかをサポートしている。	医療ケアがあっても、外出やプール、公園での遊びを充実させていく。
2	少人数からの社会参加	初めてご両親と離れて過ごす。体調が不安定で外出が難しい。そのようなお子さんでも安心して過ごすことができるよう支援している。少人数であるため、集団が苦手なお子さんも、一人一人のペースで無理なく社会参加できる。	お子さんの成長発達に合わせ、タイミングをみて、さらに大きな集団（保育園や幼稚園、他事業所の併用）へ移行できるようサポートしていく。
3	就学を見据えた支援	多機能型で放課後等デイサービスを運営している。就学後はどんな生活になるのか？就学までどんなふうに生活を整えていけば良いのか？特別支援学校の先生や先輩ママから学校での様子を聞く機会がある。	２店舗目の放課後等デイサービスを開設予定。 児童発達支援から放課後等デイサービスへの優先枠を確保し、切れ目のない継続した支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の活動時間が短い	多機能型で放課後等デイサービスを運営しているため、時間的な制約があり活動時間が短そのため、活動内容（長時間の外出、遠足など）が限られてしまうことがある。	遠足や外出時は、臨機応変に活動時間を変更し、活動の幅を広げていく。限られた時間でもいろいろなことが経験できるようプログラムの内容を工夫していく。
2	少人数のため集団活動が少ない	１日の利用者が２～３名のため、集団活動が実施しにくい。	地域の保育園、幼稚園と交流を実施し、集団活動を経験できるよう工夫していく。職員との関りが主とならないよう、お子さん同士が関われる時間を積極的に作っていく。
3	専門職による活動プログラムの立案	保育士中心に療育プログラムを組んでいるが、専門職（ＰＴ、ＯＴ、ＳＴなど）による、療育プログラムの参加が不足している。	多職種による活動プログラムの立案。療育支援の目標設定や評価の機会を増やす。積極的に研修への参加する。